

協力しながらの実施となった。5月に留学生4名と日本人学生9名で実行委員会を結成、静岡大学国際交流センター教員とともに準備・運営を行なった。

第一の成果としては、「留学生」と「日本人学生」ではなく、同じ「静岡県で学ぶ学生」として活動できたことである。学生（留学生と日本人学生）が実行委員だったことで同じ学生として活動に取り組む姿勢があり、それが参加学生（留学生と日本人学生）にも波及した。その結果、イベント終了後も学生同士の交流が続いている。このような個人レベルでの友人関係が築けたことは大きな成果である。

また、同じ静岡県で勉学する仲間として、大学で学ぶ意義について学生自身が考察を深められたことは成果と言えよう。例えば、「これからの平和について話をしよう」のグループでも、一人の大学生として何ができるかに絞って話し合うことができた。これは、学生（留学生と日本人学生）が実行委員として主体的に準備・運営し、学生が最も興味を持つ事柄をテーマとした結果、学生が自分自身の課題として具体的なレベルからテーマに取り組み、観念論や抽象的議論に陥ることがなかったことが理由だと思われる。

静岡県は平成21年度より、質の高い留学生を受け入れ、地域社会・産業を支える人材として送り出す方針をとっており、産学官の連携が進んでいる。しかしながら、静岡県の国際化を進めるためには、今後、留学生支援と並行して、日本人学生の国際化を積極的に進めなければならない。「話っ、輪っ、和っ！」は多様な価値観、背景を持つ留学生と日本人学生が気軽に交流できる機会である。同じ大学生として有意義な大学生活を送ることができるよう、留学生へも日本人学生へも働きかけをさらに強めていきたい。

第20回 榛葉鉄工所との交流

袴田 麻里

平成25年7月27日、株式会社榛葉鉄工所榛葉正志会長より浜松キャンパスの留学生およびその家族約33名が、伊東学長、鈴木国際交流センター長とともにヤマハリゾートつま恋に招待をいただき、午前のスポーツや昼食会、午後のミニ運動会を通して、同社社長や社員との親交を深めた。今年のご招待は20回目であり、伊東学長より感謝状が手渡された。

株式会社榛葉鉄工所（掛川市）は、輸送用機器部品を開発、製造する企業である。マフラーを提供するスズキ、カワサキの自動二輪車が世界各地へ販売され高い評価を得ていることから、世界の人々に恩返しという意味を込めて、榛葉正志社長（現会長）が平成2年から静岡大学工学部の留学生との交流会を計画し、新入社員研修の一環として実施なされたのが始まりである。景気低迷の一時期を除き、平成11年からは榛葉社長個人のご好意で、毎年浜松キャンパスの留学生とその家族を招待して下さっている。この交流が縁で平成13年に理工学研究科後期課程を修了した中国人留学生が榛葉鉄工所に入社し、現在、タイ工場の社長として活躍中である。また、現在は、博士課程修了者2名がインターンシップでお世話になっている。

留学生にとって、このように親しく企業の方々と接する機会は非常に貴重である。工学部や情報学部にも所属する留学生は、日本の技術や製造業に関心を持っており、卒業後は日

本企業で技術者として活躍することを望んでいる場合が多いからだ。「留学生30万人計画(平成20年)」以降、留学生と企業との交流が声高に言われるようになってきた。そのずっと以前から榛葉鉄工所は、留学生が従業員の方々と近しく交流する機会を設けてくださってきた。何よりも特筆に値するのは、この大掛かりな企画を20回も継続してくださっていることだ。おかげで、留学生は毎年参加を楽しみにしている。

このような素晴らしい交流会を20回も開催してくださった榛葉会長、さまざまな準備、当日のお世話等担当の社員の皆様に心から感謝したい。